

越後三条「良寛のみち」を歩くコース

テーマ：○普段歩き ○町並み・街なか探訪 ○歴史探訪 ○文学探訪 ○神社・仏閣めぐり

特徴…「良寛のみち」は市民の散策路として市が計画したみちで、多くの人に歩いていただきたいコース。人や自然を愛した良寛さま、その遺徳を偲びたいものです。

<アクセス> 起点：図書館
◇ JR：北三条駅から徒歩3分
◇ デマンド交通：市街地エリア30番 図書館
□ 駐車場（無料40台） 場所：三条鍛冶道場

○道路の歩道を歩くコース



三條市立図書館 良寛像

図書館

図書館の2階には良寛さまの最古の良寛碑の断片があるほか、良寛さまの展示室があります。
(TEL:0256-32-0657 三條市元町1-6)

【休館】

- ・第3月曜日
- ・月末(月末が土・日・月曜日の場合は直前の金曜日)
- ・年末年始(12/28~1/3)
- ・特別整理期間(毎年2月頃実施予定)



良寛乞食の詩碑



「良寛のみち」の目印となる標識とレンガ色のインターロッキングブロックの舗装

越後三條 良寛のみち



三條は、良寛さまがよく托鉢に来られ、乞食の折に残された逸話がいくつも点在しています。寺も持たず、弟子もとらず、こよなく人間を愛し、権力や利欲に屈せず仏道を歩まれた良寛さま。自然と融合し、人の心を温め、人を真に愛した良寛さまの心は、時を越えて今もなお私たちに語りかけてきます。

⑦ 今所屋跡
本町5-2-23
「この浴衣洗っておくれ、禪も」という置き手紙を添えて、良寛が洗濯物の風呂敷包みを見捨てたといわれる逸話がある。



⑥ 良寛歌碑
八幡公園・八幡町12-18
「八幡の森の木下に子供死に遊ばす夕日の暮れ間惜しかた」

⑤ 良寛乞食の詩碑
八幡公園・八幡町12-18
⑥の詩碑が大火で破壊され、大正13年(1924)1月、昭和天皇の二枚婚を記念して再建。



⑧ 三浦屋跡
本町4-2-10
三條の(非)号室三浦屋幸助(1771-1834)は良寛と親交があり、菓子商。銘菓「都ようかん」は良寛の好物。



④ 村山半牧の貞徳碑
八幡公園・八幡町12-18
刊本初の『備良寛歌集』の編者、画家、勲章の志士三條文人(1828-1868)

③ 良寛落葉の句碑
日吉神社・元町10-22
園上山中の五合庵の傍らに建つ碑「たはほとは月がもてくる落葉か」と同文のもの。



大天風上
良寛の
三條市内に所蔵されている

⑬ 三浦屋幸助の墓
定明寺・東蔵館1-10-3
「この言はぬ花にこの言、墓の前 三條」天保4年(1833)春、良寛の三周忌法要の折、高崎隆泉寺の良寛墓前に、俳人三浦屋幸助が手向山に句を刻む。

② 最古の良寛碑
三條市立図書館・元町1-6
「十字街頭を乞いすかり八幡宮四方に徘徊す 兒童相見と共に相踏む 去年の癩僧今又来たる」良寛没後天保6年(1835)三條町人が建立した。



⑨ たんご屋跡
神明町3-9
主人の名は利右衛門。その妻は、よく立ち寄った良寛の衣を洗い、世話をした逸話がある。



① 良寛禅師像
三條市立図書館・元町1-6
三條市井栗出身の彫刻家榊沢清が昭和2年(1927)に完成。その原型に基づきつくられた。



⑩ 良寛放球の詩碑
神明宮・神明町3-9
「裾子短く褌衫長し 騰は元は只塵に過ぐ 陌上の兒童忽ち我を見 手を拍つて背しく唱ふ放球歌」



⑭ 宝塔院
東蔵館1-6-5
良寛は、真宗宗宝塔院の住持隆全(1758-1835)を訪ねて、時には寺に数か月滞在した。禅定庵「良寛書三條宝塔院」との横三字の遺墨が市内に現存。宝塔院は良寛の修行道場でもあったようである。隆全がまとめた『良寛法師歌集』には良寛の歌127首が収められ、分木町牧ヶ花の齋良寛に保存されている。

⑪ 良寛詩碑
浄土真宗大谷派東別院
本町2-1-57
「三條の御坊にて、不可思議の弥陀の誓のなかりせば、何ぞ二の世の鬼い出にせん」

